

平成24年度 東大阪市支援研究会 作品展の報告

今年も恒例の作品展が無事終わりました。東大阪市支援研の進路指導部会が分担しています。

10月の参加申し込み受付から初めて4ヶ月間に渡り、進路部会全員体制で取り組みました。

日 時：平成25年1月26日（土）～28日（月）午前9時30分～午後4時

場 所：東大阪市庁舎 1階 多目的ホール この場所は今年で8回目

参加校：51小学校 22中学校 東大阪・八尾支援学校 計75校

東大阪市の地下鉄・荒本駅を下車して西に行くと、24階建ての茶色い建物、東大阪市役所が見えます。その1階の多目的ホールが作品展の会場です。狭い場所に75校の子どもたちの作品がぎっしりと詰め込まれ、明るい色彩があふれています。入り口でベニヤ板のポケモンやドラえもののキャラクターが人々を誘っています。

毎年、ケーブルTVのニュース番組で作品展の様子が紹介されます。今年は取材に立ち会って1時間くらい撮影されている様子を見ていました。放映時間は2分間くらいですが、取材された様子がうまくまとめられていて、保護者に好評です。

作品展は支援学級の活動を多くの人に知ってもらうために開催しています。子どもたちは楽しみながら細かい所まで書きこんだり、何回も作り直したりしています。作品展の会場で、子ども達が保護者に自分の作品を誇らしげに紹介する姿が見られました。

**先生方のアンケートより**

- ・美術の先生に指導してもらい、子どものすばらしい原画が生かされた。
- ・作品への思いや子ども達の様子のコメントを付けて、作品の意味がよくわかるようにした。
- ・昨年より3校合同にして、頑張っている子どもたちの姿が見られた。
- ・作品が運びやすいことや子どもの作品がよりきれいに見えるように工夫した。
- ・お楽しみ会でやったことを作品にしてイメージしやすくした。使ったものを有効利用した。
- ・ビー玉の振り子や大きな針穴写真機など触って楽しめる作品があった。
- ・キットではなく、廃材を利用して作品を作っている学校が多かった



作品展の見学者アンケートの感想より

- 学生**
 - ・ 作品を出せて良かった。
 - ・ 個性的な作品が多く、見ていて楽しかった。
- 保護者**
 - ・ 各学校の取り組んだ作品を一度に見る機会はなかなか無いので、楽しい時間でした。
 - ・ 保護者として、先生方に感謝です。娘も嬉しそうに自分の作品を指さしておりました。
 - ・ 制作中の写真があったところは子ども達の姿がわかりやすかったです。
- 教職員**
 - ・ 子ども達ができるようになったことをどういう形で作品にしようか考えながら、作品作りに取り組んでいます。作品を見て、また新たな成長を楽しみに頑張りたい。
 - ・ どんな指導をしてこんなすばらしい作品を仕上げたのか、その声かけの方法も、教諭の立場から知りたくなりました。
- 市職員**
 - ・ いつも子ども達の作品から温かさや元気もらっています。これからも子ども達のためによろしくをお願いします。
 - ・ 特別支援教育は教育の原点であり、様々な取り組みを行っていただきたい。行政も財政支援をお願いしたい。
- 一般**
 - ・ 年齢を重ねて、頭が硬くなっているのを作品を見て感じました。色んなもので作品を作られていて、幼少時の頃、発想があったのも発見しました。今日も気持ちが若返りました。
 - ・ 色々な作品があり、作られている様子を思い浮かべながら見させて頂きました。施設職員として、施設職員として施設でも参考にさせて頂きたいと思います。



その他の作品の写真は研究紀要CDに掲載の予定です。

